

28年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年12月1日～ 28年12月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
入荷動向	スギ	0.0	20.0	60.0
	ヒノキ	△ 25.0	25.0	25.0
	カラマツ	20.0	25.0	50.0
	トドマツ	50.0	50.0	50.0
消費動向	スギ	0.0	20.0	60.0
	ヒノキ	△ 25.0	25.0	25.0
	カラマツ	20.0	0.0	25.0
	トドマツ	50.0	50.0	50.0
在庫動向	スギ	16.7	20.0	20.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・合板原木の入荷は12月に一部横ばいしないし減少があるものの、総じて3ヵ月連続して増加傾向。

・合板原木の消費は一部横ばいしないし減少があるものの、総じて3ヵ月連続して増加傾向。

・スギ合板原木の在庫は3ヵ月連続して増加。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/12月	29/1月	29/2月
スギ	0.0	0.0	20.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	20.0	0.0	25.0
米マツ	75.0	75.0	75.0
北洋カラマツ	66.7	66.7	66.7
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ合板原木の購入価格は総じて3ヵ月連続して横ばい。カラマツは総じて強含み。

・米マツ及び北洋カラマツは強含みで推移。その他は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・入荷は生産に合わせており横ばい。消費は生産品目の増減で多少変わるが、ほぼ横ばい。在庫はほぼ横ばい。
・スギは順調に入荷、カラマツは難。フル生産を継続中。
・第2工場の試運転等を考慮し、2月からは若干ながら入荷量は増える見通し。消費量も増える見通し。在庫はほぼ横ばい。
・計画通りの入荷、消費。在庫は多少変動あるもほぼ横ばい。
・伐採量も今がピーク、入荷も増えてくるが年末年始は調整となる。年末年始で消費は増減。スギは増やし、ヒノキは減らしたい。
・入荷は今月までは現状通り、1月以降は少なくなる見込み。消費は変わらず。特にカラマツ在庫が多い。

(原木価格)

・スギ、カラマツ共にほぼ横ばい。
・スギについても今後、(バイオマス) 上昇か。
・国産材は横ばい、外材は現地価格の上昇、円安の進行で2月頃までは上昇傾向。
・横ばいを望むも上昇傾向にある。
・国内産は動きが良いので横ばいで行きたい。国外産はルート、為替の影響で価格は上昇傾向にある。
・変化なし。

28年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
生産動向	構造用(9mm)	△ 20.0	25.0	50.0
	〃 (12mm)	16.7	40.0	60.0
	〃 (15mm)	0.0	20.0	20.0
	〃 (24mm)	50.0	40.0	40.0
	〃 (28mm)	33.3	20.0	20.0
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	25.0	0.0
	〃 (12mm)	33.3	40.0	20.0
	〃 (15mm)	16.7	20.0	0.0
	〃 (24mm)	66.7	40.0	20.0
	〃 (28mm)	66.7	40.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 50.0	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (15mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 33.3	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (28mm)	△ 50.0	△ 20.0	△ 20.0

・構造用合板の生産は一部に減少ないし横ばいがあるものの、総じて3ヵ月連続して増加。

・構造用合板の出荷は特に12mm, 24mmが3ヵ月連続して増加。15mm, 28mmは12月、1月の増加化から2月は横ばい。9mmは12月の横ばいが、1月は増加し、2月は横ばい。

・構造用合板の在庫は、9mmは3ヵ月連続して横ばい。12mm, 24mm及び28mmは3ヵ月連続して減少。15mmは12月の減少が、1月、2月は横ばい。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/12月	29/1月	29/2月
構造用(9mm)	20.0	25.0	0.0
〃 (12mm)	16.7	20.0	0.0
〃 (15mm)	16.7	20.0	0.0
〃 (24mm)	16.7	20.0	0.0
〃 (28mm)	16.7	20.0	0.0

・構造用合板の出荷価格は全品目で12月、1月の強含みが、2月は横ばいに。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・総生産量を増やせない中、24mm, 28mmを欲しいとの声が強いので生産を増やし、9mm, 12mmは生産減少。生産分は全部出荷。低水準での在庫量で横ばい。
- ・フル生産中、納期遅延あり、引合い多し、注文残は1、2月にデリバリー。2月までは在庫は減少傾向。
- ・生産＝出荷で、12mm, 24mmなどは生産増を見込む。生産すると2～3日で出荷、動きは多い。12mm, 24mmの引合い多く、在庫は減少。
- ・計画通りの生産。生産量に応じ出荷。在庫は全品種で減少、特に12mm, 28mmが減。
- ・年末年始により生産量は減る。発注状況に合わせての生産内容となる。12mm, 15mm、ネダソンの引合いは強く、生産状況に合わせての出荷となる。在庫は低水準のまま増える見込みはない。
- ・少量生産、販売につき変化なし。

(構造用合板の価格)

- ・提示単価に少しづつ近づいている、
- ・コスト等（原木、接着剤等）の上昇が心配、それに伴い製品価格UP。
- ・横ばい。
- ・円安の影響で原木価格次第では、価格見直しもありうる。
- ・変化なし。